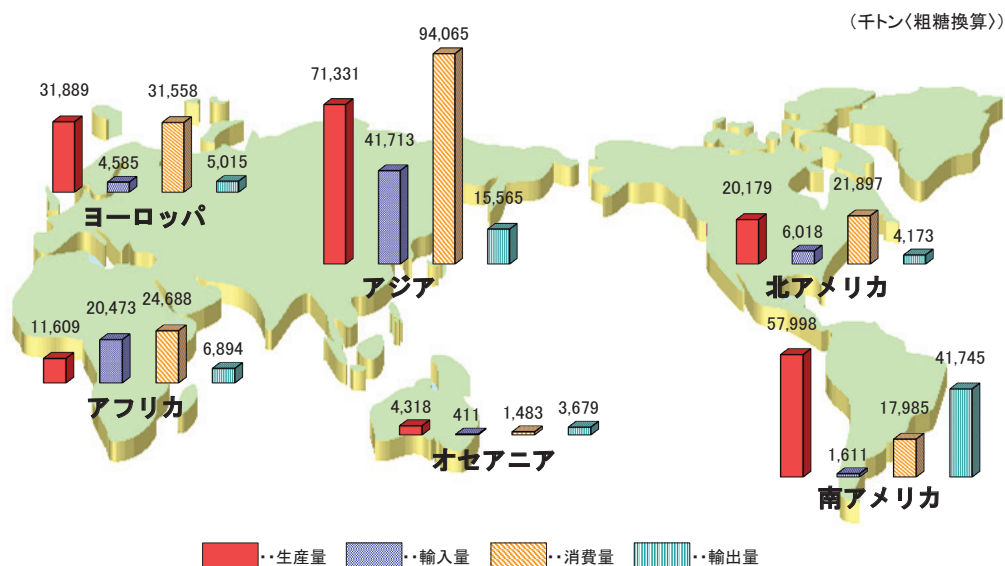


砂糖の国際需給

調査情報部 福寿 悠星、峯岸 啓之

1 世界の砂糖需給（2024年6月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別砂糖需給（2023/24年度予測値）



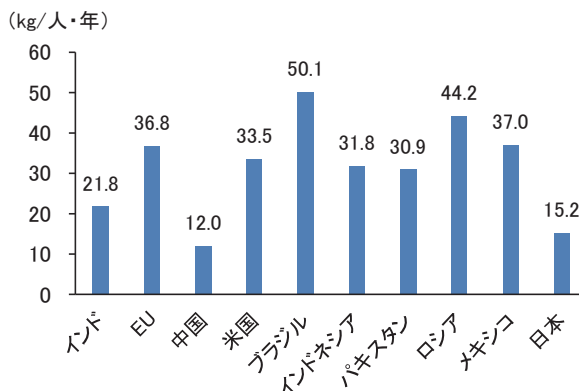
資料：英国の民間調査会社GlobalData UK Ltd. 「Quarterly Statistical Update, June 2024」
 注1：年度は、国際砂糖年度（10月～翌9月）。
 注2：ヨーロッパには、ロシアを含む。

GlobalData UK Ltd.（農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社）による2024年6月時点の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述）、2023/24砂糖年度（10月～翌9月）の世界の砂糖生産量は、1億9732万トン（粗糖換算〈以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算〉）、前年度比3.0%増）とやや増加が見込まれている（表）。生産量第1位のブラジルで大幅な増産となるほか、EUや中国などでは前年度の減産から回復が見込まれているが、第2位のインドやタイでは減産が見込まれている。

また、同年度の世界の砂糖消費量は、1億9168万トン（同1.0%増）とわずかな増加が見込まれている。EUや米国でわずかに減少するものの、消費量第1位のインドを筆頭に中国やブラジル、インドネシアなどで増加が見込まれている。

この結果、期末在庫率は40.4%と3年ぶりの40%台が見込まれている。地域別の砂糖需給の予測値は、図1の通りである。また、主要消費国・地域の1人当たり砂糖消費量は図2の通りである。

図2 1人当たり砂糖消費量（2023/24年度）



資料：GlobalData UK Ltd. 「Quarterly Statistical Update, June 2024」
 注1：年度は、各国の砂糖年度。
 注2：EUには、英国を含む。
 注3：主要消費国・地域上位9カ国・地域および日本を表示。

表 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン〈粗糖換算〉、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1993/94	43,011	111,671	29,296	111,545	30,792	41,641	37.3
1998/99	55,071	134,755	36,987	124,048	39,954	62,812	50.6
2003/04	67,776	143,453	44,661	145,044	47,150	63,697	43.9
2008/09	67,085	150,476	48,241	160,676	49,830	55,297	34.4
2013/14	63,710	184,058	58,323	175,873	61,044	69,173	39.3
2018/19	80,727	186,660	61,474	182,930	61,506	84,426	46.2
2019/20	84,426	181,781	69,283	182,416	71,703	81,372	44.6
2020/21	81,372	181,931	66,766	184,867	68,152	77,050	41.7
2021/22	77,050	186,409	69,260	188,083	71,320	73,317	39.0
2022/23	73,317	191,489	70,654	189,764	71,649	74,048	39.0
2023/24 (2024年6月予測)	74,048	197,323	74,811	191,677	77,071	77,435	40.4

資料：GlobalData UK Ltd. 「Quarterly Statistical Update, June 2024」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

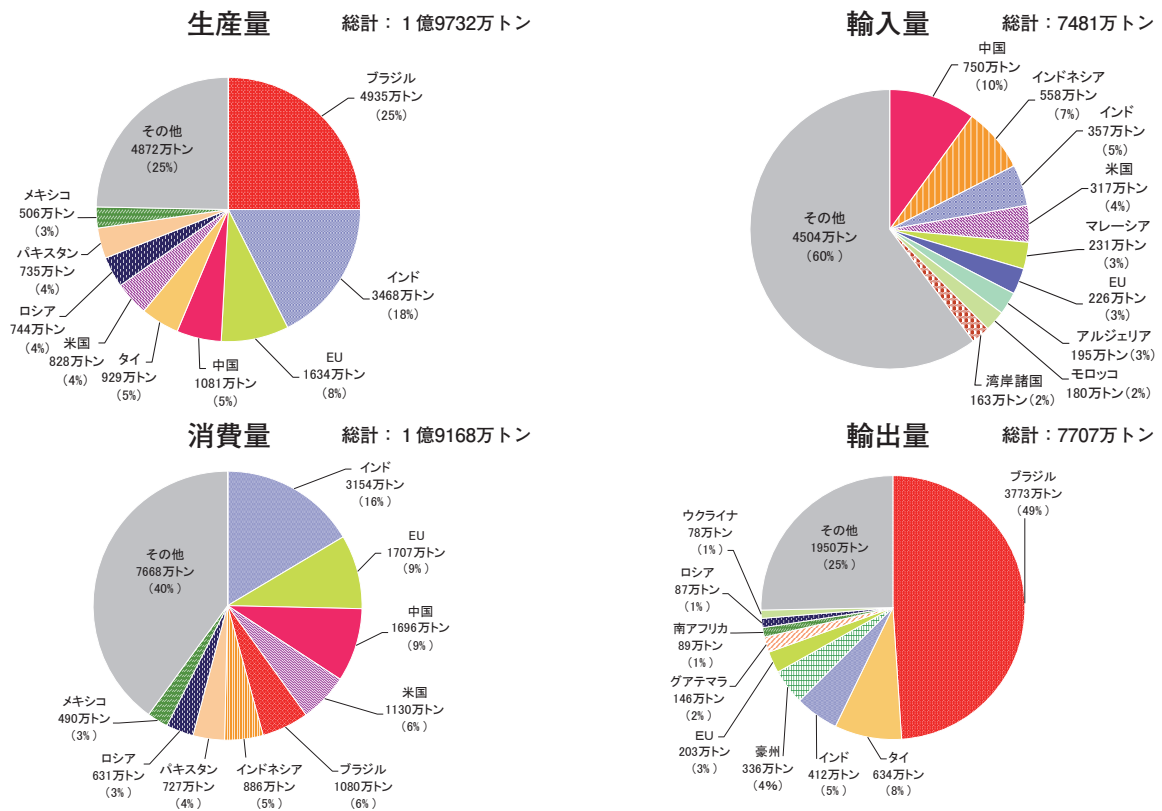
注2：2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。

注3：期末在庫量は（期首在庫量＋生産量＋輸入量－消費量－輸出量）。

注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

2 主要国の砂糖需給（2024年6月時点予測）

図 主要国の生産量、輸入量、消費量、輸出量（2023/24年度）



資料：GlobalData UK Ltd. 「Quarterly Statistical Update, June 2024」

注1：年度は、各国の砂糖年度。

注2：各数量においては、その主要国とその他を表示。カッコ内はシェア (%)。

注3：「その他」は、総計から主要国の計を差し引いた数値。

注4：端数処理の関係で内訳の合計が総計と一致しないまたは100%にならない場合がある。

注5：EUは、英国を除く27カ国。また、湾岸諸国とは、アラブ首長国連邦、バーレーン、カタール、オマーンの4カ国を指す。

【生産量】

ブラジルは、サトウキビの主産地である中南部が天候に恵まれたことで増産が期待されることから、4935万トン（前年度比24.2%増）と大幅な増加が見込まれている（図）。

インドは、モンスーン到来の遅れや季節外れの大雨などによるサトウキビの減産を受け、3468万トン（同2.0%減）とわずかに減少が見込まれている。

EUは、雨天が続く、近年、主産地の多くで懸念されている萎黄病^{いおう}（注）の発生が減少したことから、1634万トン（同4.9%増）とやや増加が見込まれている。

【輸入量】

中国は、世界的な砂糖価格の上昇などを背景に22/23年度には砂糖の輸入を停止した時期があったものの、23年6月以降は再開し、ブラジルからの輸入を軸に750万トン（同27.5%増）と大幅な増加が見込まれている。

インドネシアは、エルニーニョ現象の影響などにより生産量がやや落ち込むことに加えて、世界的な砂糖価格の上昇などにより、558万トン（同16.2%減）と大幅な減少が見込まれている。

【消費量】

インドは、スナック菓子市場の拡大やケータリングサービスの利用者の増加により、3154万トン（同4.8%増）とやや増加し、世界の砂糖総消費量の16%を占めると見込まれている。

EUは、1707万トン（同0.7%減）とわずかな減少が見込まれ、長らく砂糖需要を拡大させてきた中国は、1696万トン（同2.3%増）とわずかに増加するものの、EUの消費量をわずかに下回ると見込まれている。

【輸出量】

ブラジルは、インドやタイなど主要輸出国がいずれも減産見込みから輸出量を大幅に減らすと見込まれる中、生産量の増加に後押しされ、3773万トン（同30.2%増）と大幅に増加し、世界の砂糖総輸出量の約5割を占めると見込まれている。

タイは、収穫面積の減少や年初の高温、乾燥によるサトウキビの減産などから、634万トン（同20.8%減）と大幅な減少が見込まれている。

インドは、減産に伴う国内需要の不足分を確保するため、政府による輸出制限を実施していることなどから、412万トン（同52.3%減）と大幅な減少が見込まれている。

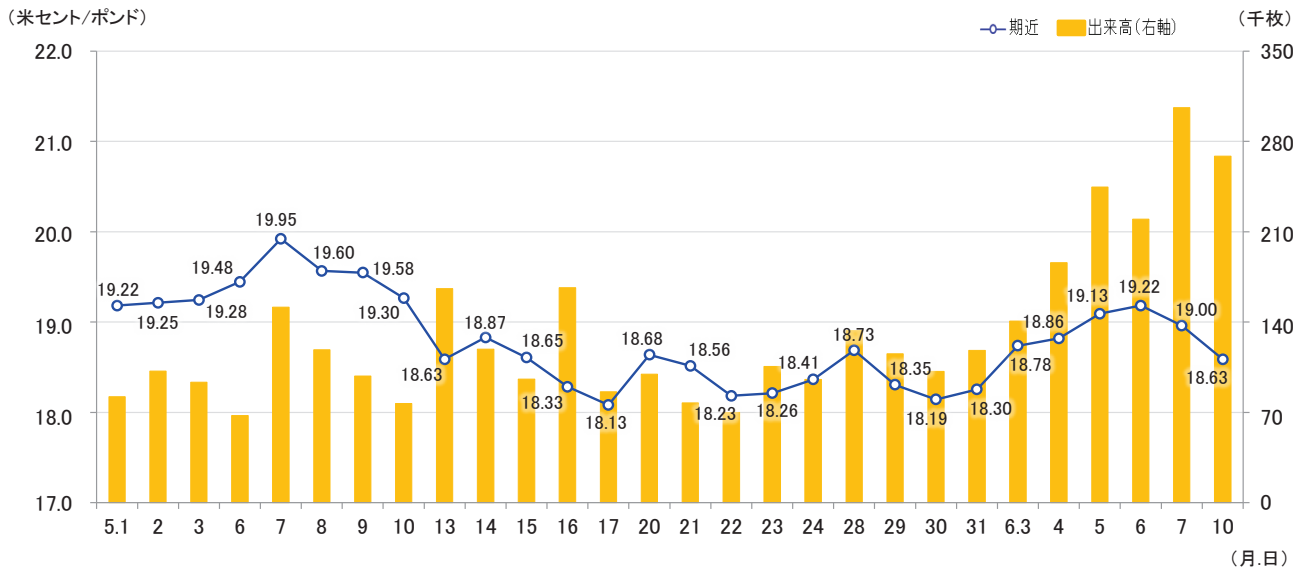
（注）アブラムシによって媒介される植物ウイルス病。

3 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖先物相場の動き (5/1 ~ 6/10)

～ブラジルの増産やインドでのモンスーンの早期到来から18セント台まで下落～

図 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所
注：期近7月限の値。

2024年5月のニューヨーク粗糖先物相場（7月限）の推移を見ると、1日は原油価格の下落（注1）により、1ポンド当たり19.22セントをつけた（注2）。2日以降はブラジルのリアル高（注3）のほか、インドの減産による世界的な砂糖供給量の減少見通しにより、7日には同19.95セントまで上昇したが、8日以降はドル高やブラジルの増産予測に伴う砂糖供給の懸念緩和により下落し、13日は同18.63セントと1年半ぶりの安値を記録した。14日はドル安により一時的に上昇に転じたものの、15日以降はブラジルサトウキビ産業協会（UNICA）が、ブラジルの増産を発表したことで再び下落に転じ、17日には同18.13セントをつけた。20日はリアル高で一時的に上昇に転じたものの、21日以降はブラジルの増産の影響を引き続き受け、22日には同18.23セントまで下落した。23日以降はブラジル

の増産による砂糖価格の下落が需要増加の呼び水となり、中国などの砂糖消費国の輸入量が増加したことなどから、28日には同18.73セントまで回復した。29日以降は、インドでのモンスーンの早期到来が砂糖生産の見直し改善の材料となったことや、リアル安から再び下落したものの、ショートポジション（注4）をカバーするための買い戻しにより上昇に転じ、31日は同18.30セントをつけた。

6月に入ると、ドル安やブラジルやインドなどの主要生産国を含めた世界的な天候不順の懸念から上昇を続け、6日には同19.22セントまで回復したものの、7日以降はリアルが対ドルで17カ月ぶりの安値まで下落したことなどから、10日には同18.63セントまで下落した。

（注1）一般に、原油価格が下落すると、石油の代替燃料

であるバイオエタノールの需要も減少する。バイオエタノールの需要減少により、その原料作物（サトウキビ、てん菜など）のバイオエタノール生産への仕向けが減る一方、それらから生産される食品（サトウキビの場合は砂糖）の生産・供給が増えると想定される。食品用途仕向けの度合いが大きくなるほど需給が緩和し、当該食品の価格を押し下げる方向に作用する。

（注2）1ポンドは約453.6グラム、1米セントは1米ド

ルの100分の1。

（注3）粗糖は米ドル建てで取引されるため、米ドルに対してレアルが上昇すると、相対的にブラジル産粗糖の価格競争力が弱まる。世界最大の砂糖輸出国ブラジルの輸出意欲が低下すると、需給のひっ迫につながることから、価格を押し上げる方向に作用する。

（注4）将来の値下がり期待して売りの持ち高を取っている状態。

4 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向（2024年6月時点予測）

ブラジル

2024/25年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：873万ha（前年度比4.2%増）

生産量：6億7077万トン（同5.9%減）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：4902万トン（同0.7%減）

輸出量：3876万トン（同2.7%増）

2024/25年度の砂糖生産量はわずかに減少するも引き続き高水準を維持する見込み

2024/25年度（4月～翌3月）のサトウキビ収穫面積は、873万ヘクタール（前年度比4.2%増）とやや増加が見込まれている（表）。一方、サトウキビ生産量は、5月の単収が前年並みであったものの、中南部地域で平年より乾燥した気候が続き、将来的な収量の低下が予想されていることから、6億7077万トン（同5.9%減）とやや減少が見込まれ

ている。

砂糖生産量は、5月中旬までの中南部地域の実績が前年の同時期の実績を上回るなど順調であるが、記録的な生産量となった23/24年度には及ばず、4902万トン（同0.7%減）とわずかな減少が見込まれている。砂糖輸出量は、インド産やタイ産の輸出が振るわないことから、引き続き国際市場でのブラジル産砂糖の堅調な需要が期待され、3876万トン（同2.7%増）とわずかに増加が見込まれている。

表 ブラジルの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

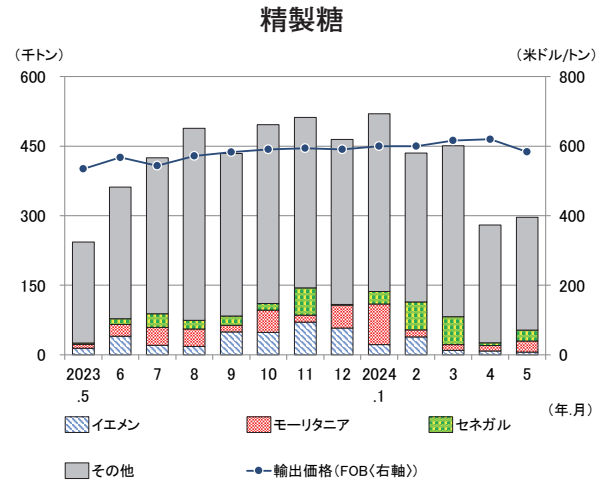
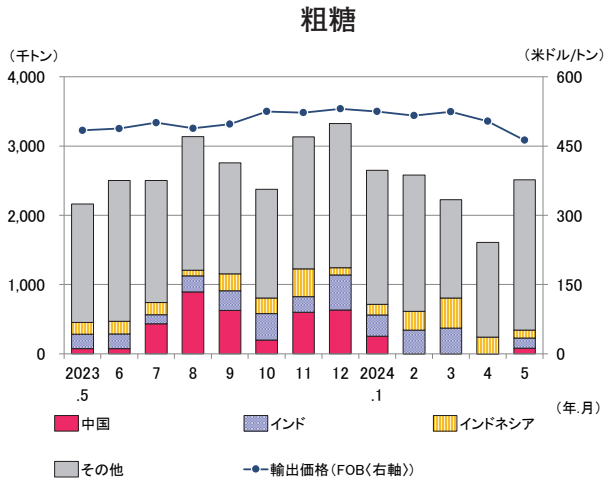
年度	2021/22	2022/23	2023/24	2024/25 (5月予測)	2024/25 (6月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	8,679	8,485	8,380	8,682	8,732	4.2%
サトウキビ生産量	576,707	606,676	713,134	667,163	670,766	▲ 5.9%
砂糖	生産量	37,620	39,720	49,350	49,100	▲ 0.7%
	輸入量	5	2	5	4	▲ 22.0%
	消費量	10,712	10,770	10,800	10,672	0.0%
	輸出量	27,093	28,985	37,727	38,927	2.7%
	期末在庫量	3,581	3,548	4,375	4,043	▲ 12.3%
	期末在庫率	9.5	8.9	9.0	8.2	7.7

資料：GlobalData UK Ltd. 「Monthly Sugar Information in Major Countries, June 2024」

注1：2022/23年度および2023/24年度の数値は推定値、2024/25年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) ブラジルの砂糖 (粗糖・精製糖別) の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」
 注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。
 注2：輸出量は、直近13カ月（累計）の上位3カ国・地域を表示。

インド

2023/24年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：522万ha（前年度比4.1%減）
 生産量：4億3694万トン（同4.2%減）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：3468万トン（同2.0%減）
 輸出量：412万トン（同52.3%減）

2023/24年度の砂糖輸出量は減産と国内供給の確保により大幅に減少する見込み

2023/24年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は、ほぼ収穫期を終えていることから、5月予測と同じく522万ヘクタール（前年度比4.1%減）とやや減少が見込まれている（表）。サトウキビ生産量は、主産地であるマハラシュトラ州では前年を上回るものの、ウッタル・プラデーシュ州東部では冬季の降雨が少なかったことや赤腐病（red rot）^(注)の発生で不作傾向となったことなどから、4億3694万トン（同4.2%減）とやや減少が見込まれている。

砂糖生産量は、同国政府がサトウキビ由来のエタノール生産を制限し、引き続き砂糖への仕向けを優先させているが、ウッタル・プラデーシュ州でのサトウキビの減産などにより、3468万トン（同2.0%減）とわずかな減少が見込まれている。砂糖輸出量は、砂糖の減産見込みに加え同国政府による輸出制限により、412万トン（同52.3%減）と大幅な減少が見込まれている。

(注) 真菌の感染によって引き起こされる病気で、茎の内部が腐り、赤色に変色する。サトウキビの単収や砂糖の回収率に深刻な影響を及ぼすとされている。

表 インドの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 (5月予測)	2023/24 (6月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	4,819	5,222	5,441	5,215	5,215	▲ 4.1%
サトウキビ生産量	415,221	481,599	455,898	435,724	436,937	▲ 4.2%
砂糖	生産量	33,642	38,559	35,389	34,903	▲ 2.0%
	輸入量	1,037	427	1,687	3,611	2.1倍
	消費量	28,679	29,516	30,078	31,320	4.8%
	輸出量	8,538	12,468	8,646	4,449	▲ 52.3%
	期末在庫量	7,971	4,973	3,325	6,070	77.8%
	期末在庫率	21.4	11.8	8.6	17.0	16.6

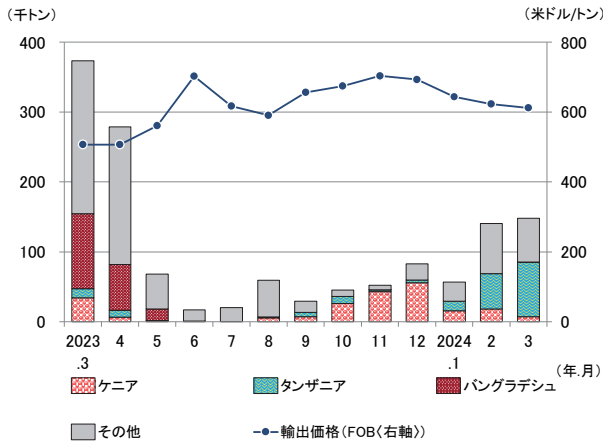
資料：GlobalData UK Ltd. 「Monthly Sugar Information in Major Countries, June 2024」

注1：2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。

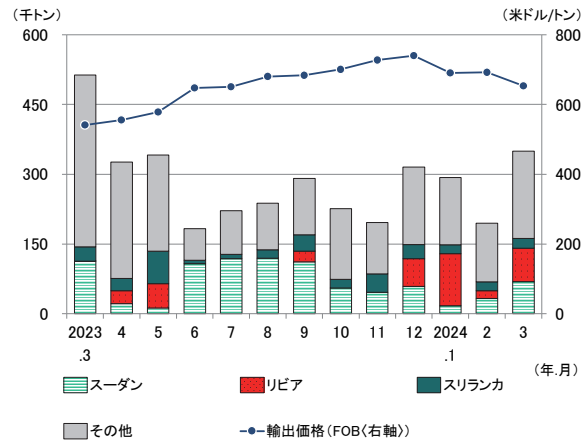
注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移

粗糖



精製糖



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：輸出量は、直近13カ月(累計)の上位3カ国・地域を表示。

中国

2023/24年度(10月～翌9月)の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：116万ha(前年度比5.3%増)

生産量：7329万トン(同17.1%増)

【てん菜】

収穫面積：18万ha(同1.1%減)

生産量：943万トン(同8.2%増)

【砂糖(甘しゃ糖およびてん菜糖)】

生産量：1081万トン(同11.5%増)

輸入量：750万トン(同27.5%増)

2023/24年度の砂糖生産量はかなり大きく、輸入量は大幅に増加する見込み

2023/24年度(10月～翌9月)のサトウキビの収穫面積は、116万ヘクタール(前年度比5.3%増)

とやや増加が見込まれている(表)。サトウキビ生産量は、広西チワン族自治区と雲南省での1月の降霜が生育の懸念材料となっていたものの、サトウキビの収穫作業は順調に進んだため、7329万トン(同

17.1%増)と大幅な増加が見込まれている。

てん菜の収穫面積は、内モンゴル自治区で農家が他の競合作物を選択したことなどから、18万ヘクタール(同1.1%減)とわずかな減少が見込まれている。てん菜生産量は、収穫面積が減少する中で、機械化が進んだことなどから単収が増加したことで、943万トン(同8.2%増)とかなりの程度増加が見込まれている。

砂糖生産量は、原料作物の生産回復を背景に1081万トン(同11.5%増)とかなり大きく増加し、21/22年度の水準にまで回復が見込まれている。輸入量は、引き続き需給ギャップを埋めるための一定の輸入量が予想されている。特に国際価格が下落した5月以降の市場では活発な動きを見せていることから、750万トン(同27.5%増)と大幅な増加が見込まれている。

表 中国の砂糖需給の推移

(単位:千ha、千トン、%)

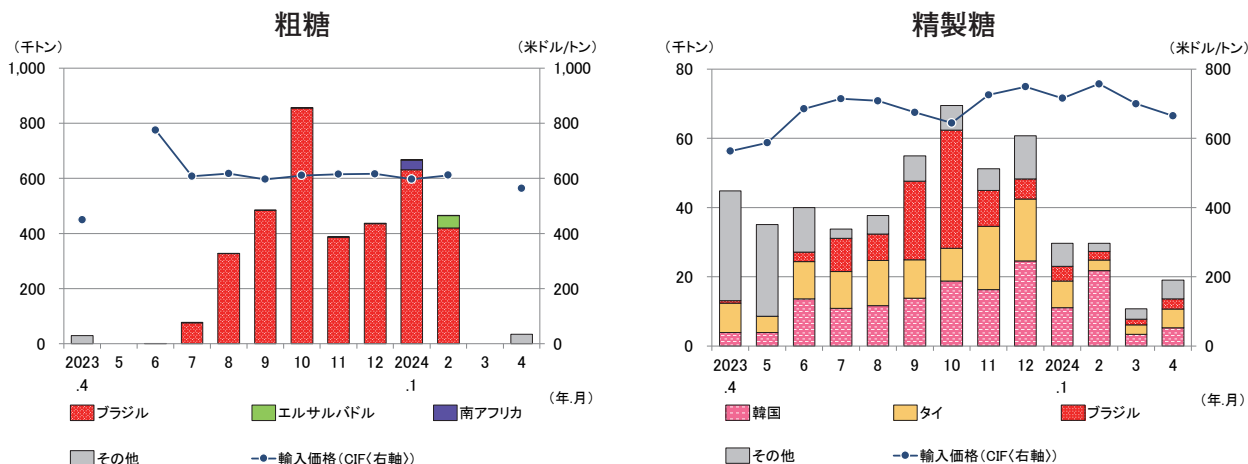
年度	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 (5月予測)	2023/24 (6月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,157	1,119	1,102	1,160	1,160	5.3%	
サトウキビ生産量	72,441	72,136	62,595	74,533	73,286	17.1%	
てん菜収穫面積	231	144	182	180	180	▲1.1%	
てん菜生産量	12,330	7,070	8,719	9,432	9,432	8.2%	
砂糖	生産量	11,530	10,334	9,698	10,963	10,812	11.5%
	輸入量	8,186	6,969	5,885	7,486	7,501	27.5%
	消費量	16,740	16,632	16,578	16,956	16,956	2.3%
	輸出量	134	172	201	216	206	2.5%
	期末在庫量	16,091	16,590	15,394	16,663	16,545	7.5%
	期末在庫率	95.4	98.7	91.7	97.0	96.4	4.7ポイント増

資料: GlobalData UK Ltd. 「Monthly Sugar Information in Major Countries, June 2024」

注1: 2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。

注2: 期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 中国の砂糖(粗糖・精製糖別)の輸入量および輸入価格の推移



資料: 「Global Trade Atlas」

注1: HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2: 輸出量は、直近13カ月(累計)の上位3カ国・地域を表示。

注3: 2023年6月の粗糖輸入量は、千トン未満のため表示なし。

注4: 2023年5月、24年3月の粗糖輸入は、実績なし。

5 日本の主要輸入先の動向（2024年6月時点予測）

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖<HSコード1701.14-110>および甘しや糖・その他<同1701.14-200>の合計）の主要輸入先は、豪州およびタイである。2023年の主要輸入先の割合を見ると、豪州が91.6%（前年比0.8ポイント増）、タイが8.4%（同0.9ポイント減）と、両国でほぼ全量を占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州

2024/25年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：36万ha（前年度比1.4%増）
生産量：3184万トン（同7.0%増）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：410万トン（同1.2%減）
輸出量：308万トン（同8.2%減）

2024/25年度の砂糖輸出量はかなりの程度減少する見込み

2024/25年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は、36万ヘクタール（前年度比1.4%増）とわずかな増加が見込まれている（表）。サトウキビの生産量は、4月に主産地であるクイーンズランド州とニューサウスウェールズ州の一部が豪雨に見舞われたものの、サトウキビにとっては恵みの雨となったとみられ、3184万トン（同7.0%増）とかなりの程度増加が見込まれている。なお、降雨は、サトウキビの収量増加に有利に働くが、著しい豪雨などにより圃場が湛水状態になるとサトウキビの

生育にも悪影響を及ぼすことがある。

砂糖生産量は、5月予測と同じく410万トン（同1.2%減）とわずかな減少が見込まれている。一部報道では、豪州最大の製糖会社が所有する八つの製糖工場で労働者によるストライキが発生した影響で、サトウキビの破碎開始の遅れが懸念されている。砂糖輸出量は、アジア地域や50年ぶりに輸出が再開された英国向けの需要が引き続き期待されるものの、砂糖の減産見込みに加え、23/24年度の輸出量が上方修正されたことにより、308万トン（同8.2%減）とかなりの程度減少が見込まれている。

表 豪州の砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

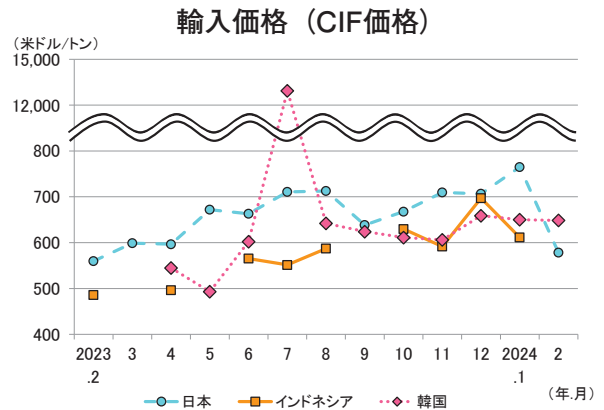
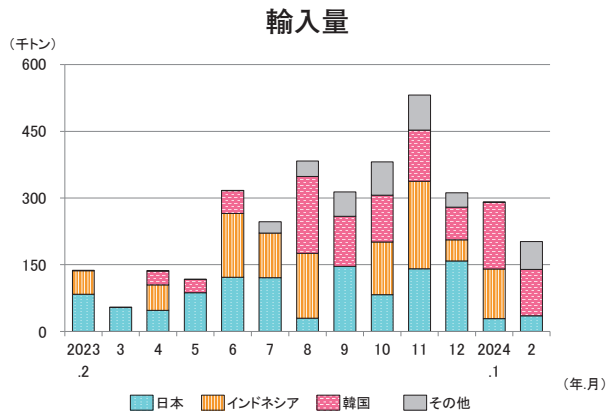
年度	2021/22	2022/23	2023/24	2024/25 (5月予測)	2024/25 (6月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	343	328	353	358	358	1.4%
サトウキビ生産量	30,123	32,593	29,757	31,841	31,841	7.0%
砂糖	生産量	4,108	4,298	4,149	4,100	▲1.2%
	輸入量	9	8	10	11	15.1%
	消費量	1,037	1,033	1,030	1,062	0.1%
	輸出量	3,453	2,942	3,356	3,049	▲8.2%
	期末在庫量	389	719	490	660	▲0.0%
期末在庫率	8.7	18.1	11.2	16.0	11.9	0.7ポイント増

資料：GlobalData UK Ltd. 「Monthly Sugar Information in Major Countries, June 2024」

注1：2022/23年度および2023/24年度の数値は推定値、2024/25年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 主要国の豪州産砂糖（粗糖）の輸入量および輸入価格の推移



資料：輸入量はGlobalData UK Ltd.「Monthly Sugar Information in Major Countries, June 2024」、輸入価格は「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）の数値。

注2：直近13カ月（累計）の上位3カ国・地域とその他の輸入量を表示。

その他は上位3カ国・地域を除いた国・地域の合計。

ただし、GlobalData UK Ltd.の資料に掲載されている国・地域となる。

注3：豪州の輸出に関する月別の統計情報は公表されていないため、主要輸入国の月別の輸入に関する統計情報に基づき作成。

注4：インドネシアの2023年3月、5月、9月、24年2月の輸入量は実績なし。

注5：韓国の2023年2月、3月の輸入量は実績なし。23年7月の輸入量は、千トン未満。

タイ

2023/24年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：152万ha（前年度比6.2%減）

生産量：8217万トン（同12.5%減）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：929万トン（同20.4%減）

輸出量：634万トン（同20.8%減）

2023/24年度の砂糖生産量と輸出量はサトウキビの減産により、大幅に減少する見込み

2023/24年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、エルニーニョ現象などによる干ばつの影響を考慮して、より乾燥に強いキャッサバへの作付けに転換する農家が増加したことで、152万ヘクタール（前年度比6.2%減）とかなりの程度減少が見込まれている（表）。サトウキビ生産量は、収穫面積の減少に加え、エルニーニョ現象による天候不順で不作傾向となったことなどから、8217万トン（同12.5%減）とかなり大きな減産が見込まれている。

砂糖生産量は、サトウキビの減産やこれまでの収穫分の可製糖率（CCS）^(注)の数値が低いことから、929万トン（同20.4%減）と大幅な減少が見込まれている。砂糖輸出量は、砂糖生産量の減少を背景に634万トン（同20.8%減）と大幅な減少が見込まれている。

(注) 可製糖率：サトウキビのシヨ糖含有率、繊維含有率および搾汁液の純度から算出される回収可能な糖分の割合。

表 タイの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 (5月予測)	2023/24 (6月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	1,485	1,525	1,617	1,518	1,518	▲ 6.2%
サトウキビ生産量	66,659	91,145	93,888	82,000	82,167	▲ 12.5%
砂糖	生産量	8,046	10,643	11,682	9,275	▲ 20.4%
	輸入量	111	149	283	150	▲ 47.0%
	消費量	3,592	3,424	3,348	3,369	0.7%
	輸出量	3,950	7,867	8,002	6,351	▲ 20.8%
	期末在庫量	5,147	4,649	5,263	4,492	▲ 5.1%
	期末在庫率	68.2	41.2	46.4	46.2	5.1ポイント増

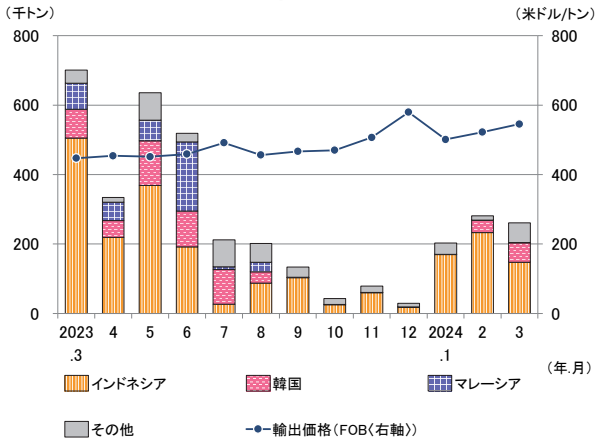
資料：GlobalData UK Ltd. [Monthly Sugar Information in Major Countries, June 2024]

注1：2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。

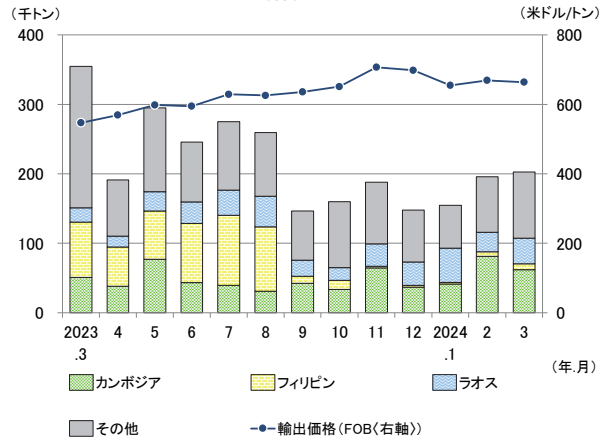
注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) タイの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出価格の推移

粗糖



精製糖



資料：[Global Trade Atlas]

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：輸出量は、直近13カ月（累計）の上位3カ国・地域を表示。